



有害物質から子どもを守る会（秋田・宮城）

会報 No. 23 子どもへのコロナワクチン接種⑥

「ワクチン後遺症：不妊症について」（2022/12/28）

2022年の秋、29歳の女性が軽い感冒症状で受診した。以前にも受診したことがあり、カルテの苗字が変わっていた。彼女は「結婚したのです。今、不妊治療を受けています」、「生理が止まったので、妊娠したのかと思い、産科を受診しました。そしたら排卵がないと言われました。」内科の診療なので、このようなことを聞くことは珍しかった。何気なく「コロナワクチンは何回、最後に接種したのはいつ？」と聞いてみた。「2回目を半年前に打った」という。ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授が、コロナワクチンを推奨する動画の最後に「コロナワクチン接種で不妊になるというのはデマです」と断言しているのを思い出した。それから意識してコロナワクチンに関する婦人科関係の医学情報や文献を調べてみた。

<FM 太白放送の婦人科医の証言>

東北有志医師の会は2022年の年末まで会員の医師によるコロナワクチンについての情報を週に2回程度放送してきた。それらは会のホームページでいつでも聞くことができる。その第40、41、42回目の放送は岩手県花巻市のKUBOクリニックの久保智義婦人科医師であった。先生によるとワクチン接種が始まってから10歳代から高齢者まで、女性の不正性器出血の患者さんが増えているという。1~2週にわたって出血が続いたり、出血の量が多いと受診する。超音波検査をしてみると卵巣に20mmかそれ以上の嚢腫状の病変が見られ、多分、血液が貯留していて、それが破れることによる不正出血であろうという。その放送を聞いて、卵巣組織内の血管破綻であれば、コロナワクチン接種後の血管系の障害として統一的に理解できるのではないだろうか。

<筋注コロナワクチンの組織分布>

PFIZER CONFIDENTIAL（強制されることのない情報開示）の「2.6.4 薬物動態試験」の概要文の中には以下のように書かれている（コミナティ筋注・審議結果報告書・令和3年2月12日にもほぼ同じ内容がある）。「雌雄ラット、 $[^3\text{H}]$ -CHEで標識したLNP（=脂質ナノ粒子）を用いたルシフェラーゼRNA封入LNPを50 μg RNAの用量で筋肉内投与し、投与後15分ならびに1、2、4、8、24および48時間の各時点において雌雄各3匹から血液、血漿および組織を採取し、液体シンチレーション計数法により放射能濃度を測定することでLNPの生体内分布を評価した。雌雄ともに、放射能濃度はいずれの測定時点においても投与部位が最も高値であった。血漿中の放射能濃度は投与後1~4時間で最も高値を示した。また、主に肝臓、脾臓、副腎および卵巣への分布がみられ、これらの組織において放射能濃度が最も高くなったのは投与後8~48時間であった。投与部位以外での投与量に対する総放射能回収率は肝臓で最も高く（最大18%）、脾臓（1.0%以下）、副腎（0.11%以下）および卵巣（0.095%以下）では肝臓と比較して著しく低かった。…」

<組織分布の解釈>

Covi-Navi（こびなび）という主に千葉大学医学部関係者が運営しているコロナワクチンに関する医学情報を発信しているホームページがある。その中にQ & Aのコーナーがあり、「1-5 ワクチン

の成分が卵巣に蓄積すると聞き、不安です。詳しく教えてください」という質問がある。その回答は、前述した記述とほぼ同じであるが、念のため引用する。

「ラットに mRNA ワクチンを接種して 48 時間後まで観察した結果、mRNA ワクチン の成分のほとんどは投与部位にとどまっていたが、一部は肝臓にも分布していました。接種されたワクチンのうち、肝臓へは最大 18% が分布していましたが、卵巣に分布したのは全体の 0.1% 以下でした。他の臓器でもワクチン成分はわずかに移行しており、脾臓（1.0% 以下）や副腎（0.11% 以下）でも確認されていますが、これらは肝臓と比べると微量です。これらの結果から、mRNA ワクチンは卵巣にわずかに分布することはありえますが、長期間に蓄積するとは言えません。これまでの臨床試験や実用化後のデータからも、mRNA ワクチンが卵巣に蓄積して生殖機能に影響を与えるとは考えられていません。」

私はこの回答はワクチンメーカーに媚びた、無思慮な回答だと考える。肝臓と脾臓は非常に血管に富んだ臓器であり、特に肝臓は臓器重量が 1~1.5Kg（平均 1250g とする）と大きい。一方、卵巣の重量は 4 から 10g（平均 7g とする）である。副腎と同様、小さい臓器だが、内分泌系の重要な機能をになっており、勿論、排卵、妊娠に重要な臓器である。臓器としての分布を組織重量（g）あたりで考え、肝臓と比較すると（臓器重量比をラットとヒトで同じとして計算）：

0.1% を 7 で割ると 0.014% 18% を 1250 で割ると 0.014% つまり組織重量あたりでは卵巣には肝臓とほぼ同程度に脂質ナノ粒子が集積すると考えられる。

前述のコミナティ筋注・審議結果報告書の中には「5.R.1 肝臓への影響について」の部分があり、「機構は、ラットにおける反復筋肉内投与毒性試験で認められた血中 GGT（=γ-GTP）の増加及び肝細胞の空胞化について、本剤接種によるヒトでの安全性を説明するよう求め、申請者は以下のように説明した。：ラットにおける反復筋肉内投与毒性試験で認められた血中 GGT の増加及び肝細胞の空胞化の発現機序は不明である。しかしながら、肝細胞の空胞化については、形態学的に脂肪滴に類似し、門脈域の肝細胞に局在すること、本剤に含まれる LNP を用いたラットにおける非臨床薬物動態試験で、脂質の肝臓への分布が確認されていることから、脂質が肝細胞に取り込まれたことにより生じたものと推察される。血中 GGT の増加及び肝細胞の空胞化は、いずれも軽度かつ回復性が認められたこと、本剤投与により肝臓及び胆道系への傷害を示唆する病理組織学的所見及び臨床検査値（血中 ALT、AST、アルカリホスファターゼ及び総ビリルビン）の変化も認められないことから、いずれも毒性学的意義が低い所見と考える」と答えている。

<別の解釈>

脂質ナノ粒子は肝細胞に取り込まれ、細胞内に空胞を形成する。卵巣組織に同程度の濃度で取り込まれる脂質ナノ粒子は何も影響を与えないのだろうか？コロナワクチン接種後の不正性器出血、生理不順についての論文は探す結構出ており、システマテックレビューもでていいる。出血だけでなく、月経周期にもワクチンが影響を与える例があるのだから、ワクチンが卵胞にも影響を与えたと考えられる。

<感想>

私の医院に来た若い女性の無月経はコロナワクチンと無関係なのだろうか。彼女は子どもを授かるのだろうか？子どもへの接種が、それも生後 6 カ月からの接種が行われようとしている。この子らが不妊症を起こすか起こさないかは 20 年以上たった後にしか分からない。（文責：加藤純二）